



第18号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【春は別れと新たな出会いの時…】

春のこの季節は、卒業式や退職など同級生や先輩などの別れがあり、また、四月に入ると入学式や就職など新たな出会いや進学・就職など、子供さんや親御さんにとっても新たな旅立ちの季節です。

昨年引き続き三月一日（水）に、我が母校でもある北海道福島商業高等学校の第六十三回卒業証書授与式に出席をさせて頂いていただき、お祝いを述べてまいりました。

その中で卒業生に母校の先輩として、世界四大聖人（釈迦、キリスト、孔子、ソクラテス）の一人、孔子の「九思」という言葉をプレゼントさせて頂いていただきました。

「見る時は、はっきり見て、聞くときははっきり聞き、顔つきはおだやかに、態度はうやうやしく、言葉は誠実に、仕事は慎重で、疑問は質し、

怒りには後々の面倒を思い、利益を前にしては道義を思う」です。

三月十七日（金）に、第三百二十三回福島小学校の卒業証書授与式に参加させて頂いていただきました。大変立派な卒業式で、子供たちから感動をいただいていたりました。

卒業生が飯田校長先生から卒業証書を受けた後、ステージからこれまでに学んだことや中学生になつて頑張ることなどを一人ひとり堂々と述べている姿に頼もしく感じました。

また、お別れの言葉において、卒業生から在校生、先生及び保護者へ感謝の気持ちを言葉でつなぐリレーがあり、最後は全員による合唱が体育館一杯に響いておりました。四月一日には、役場でも新入職員の辞令交付式があります。

平成二十九年四月一日

時点での正職員の数は七十七人（再任用職員五名を除く）となっております。

今年の採用は、五人と例年より少し多くなっておりますが、その要因は昨年中の退職者が六名と多くなったことによるものです。

採用にあたっては、退職者の補充及び不足がちな実を因るため、保育士一名、保健師一名及び学芸員一名を採用しております。なお、一般職は二名となつておりますが、地元福島商業高校の出身の方です。

数年前までは、地元の高校からの合格者が多く、町外の方々の採用が多かったのですが、高校における夏休み期間の公務員試験講座などの効果で、ここ二年は地元出身者を採用することができております。

団塊の世代の退職が続

き、大きく職員間の世代交代が進んでおり、職員の平均年齢は四十歳を割り込んでおり、また、町の財政が厳しい時代に職員採用を抑えた影響が出ており、次の時代を担う意欲のある職員を育て上げるのが責務として課せられております。

若者に人気の「いきものがかり」というグループのYELLという歌の歌詞に「サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢へと僕らを繋ぐ YELL いつかまためぐり逢うそのときまで 忘れはしない誇りよ 友よ 空へ」とありますが、故郷を巣立ち行く子供たちが、自分らしさを失うことなく、志を抱いて歩むようエールを贈りたいと思います。それぞれの置かれた場所で自分の花を咲かせることを願っております。